

# 知と表現の回路

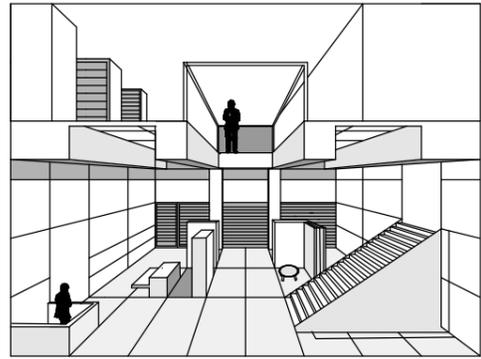
学ぶ・調べる・発表するが循環する、  
城山公園の文化学習拠点

## コンセプト

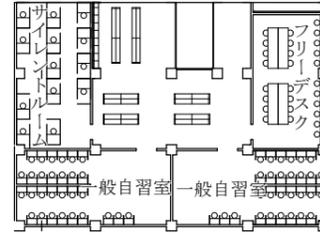
愛媛県図書館が担ってきた「知の蓄積」と、松山市民会館が担ってきた「表現の発信」を一つの建物に重ねる。図書館で学び・調べたことが、広場や回廊を介してホールへつながり、発表や鑑賞を通して再び学びへ戻る。知と表現が循環する、城山公園の文化学習拠点を提案する。

# 「知」

## 図書館

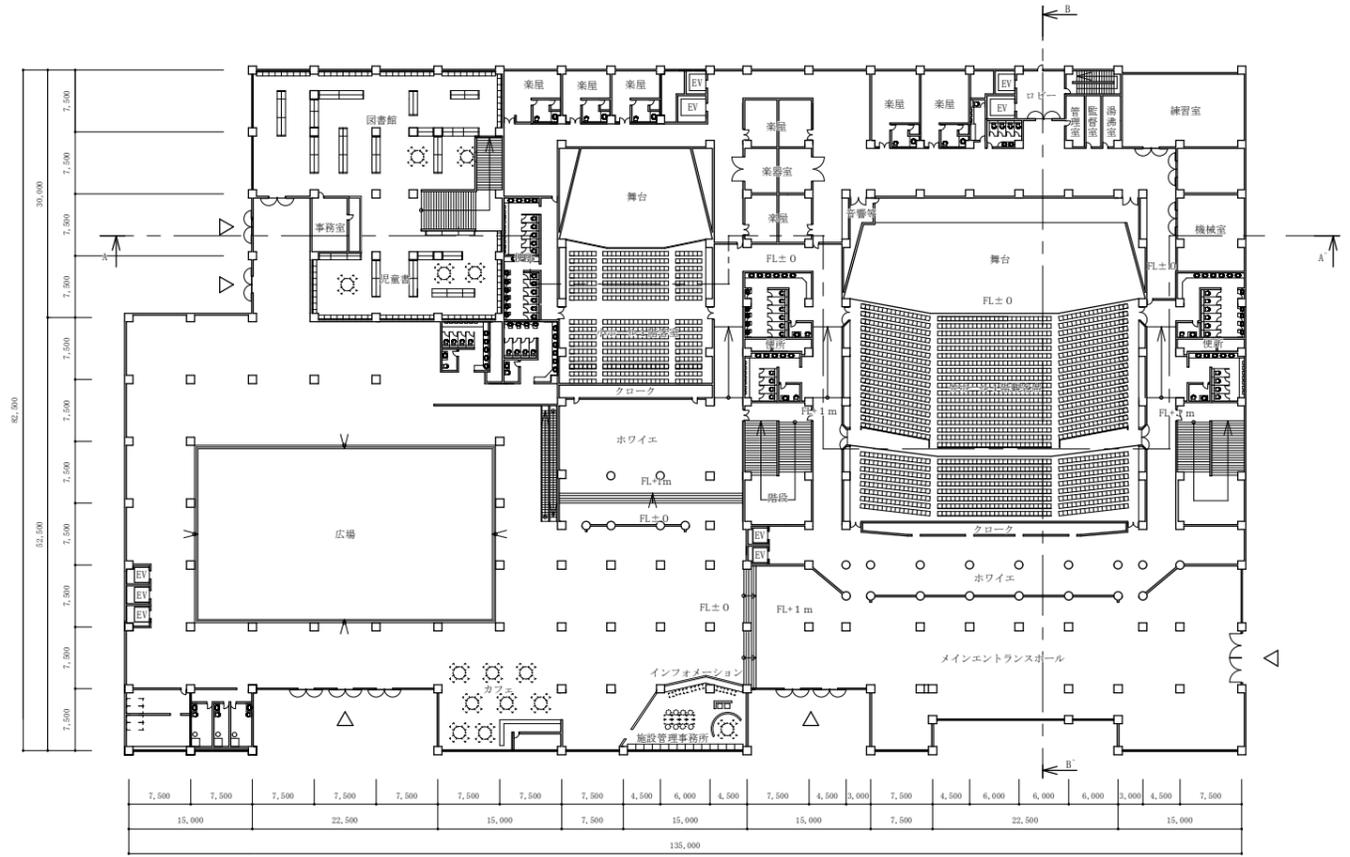


無料で集中できる学びの場をまちに確保するための中核機能として計画した。利用者の気分や集中力に合わせて選べるよう会話も許容するフリーデスク、一般自習室、サイレントルームの三つの自習空間を用意している。長時間滞在できる席を整え、家庭環境や経済状況に左右されにくい学習機会を支える。また、一般自習室は広場を見渡せることができ、学びの気配が空間ににじむ設計とした。調べる行為が創作や発表へる流れを生み出す。



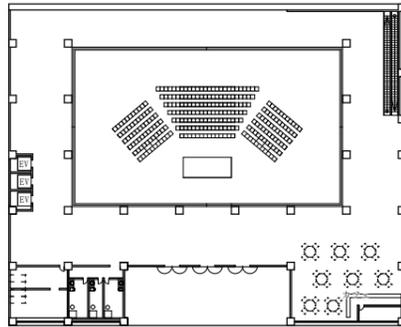
# 「融合」

図書館とコンサートホールをつなぐ建築の核で、雨天時の代替会場、マーケットスポーツ観戦などのパブリックビューイングなど多用途に対応する空間である。吹抜けにより上下階の視線をつなぎ、二階からも観客席として活動をである。吹抜けにより上下階の視線をつなぎ、二階からも観客席として活動として見下ろせる関係を作った。



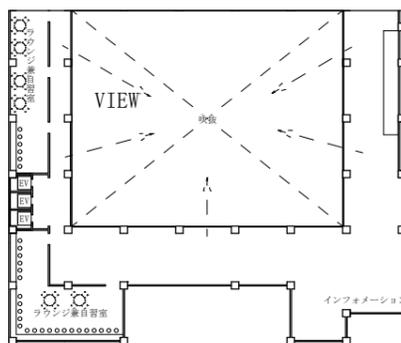
一階平面図 1/600

### パブリックビューイング

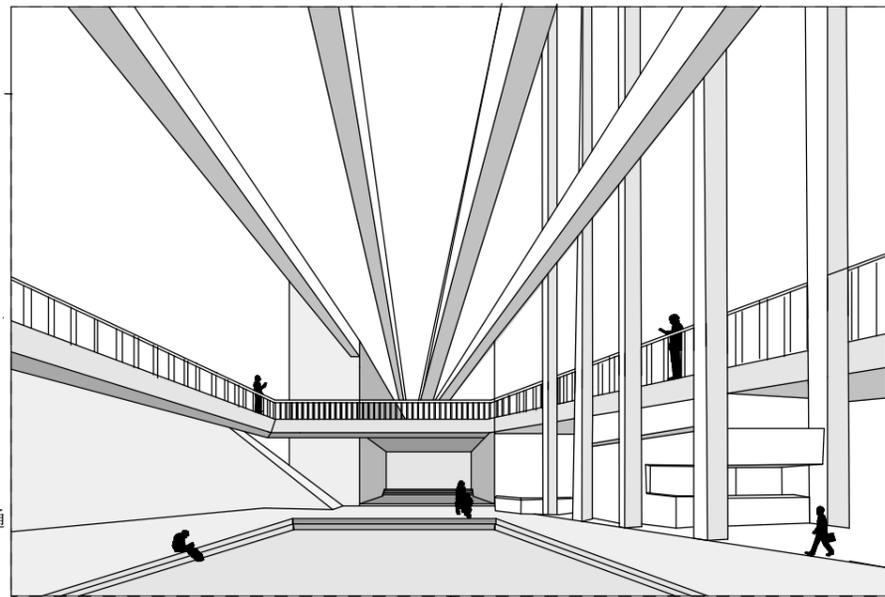


地元の選手を応援したり、スポーツを通して世代問わず交流するきっかけとなるパブリックビューイングの開催。

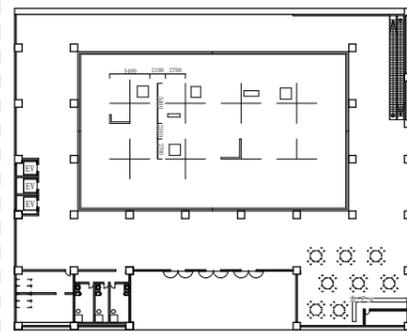
### 観客席として上階を利用



二階広場

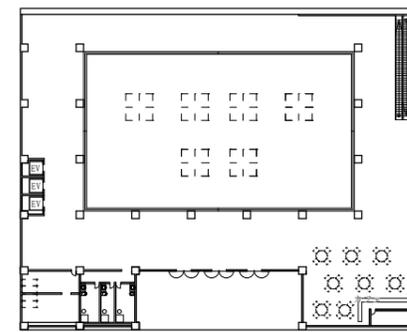


### パネル展示

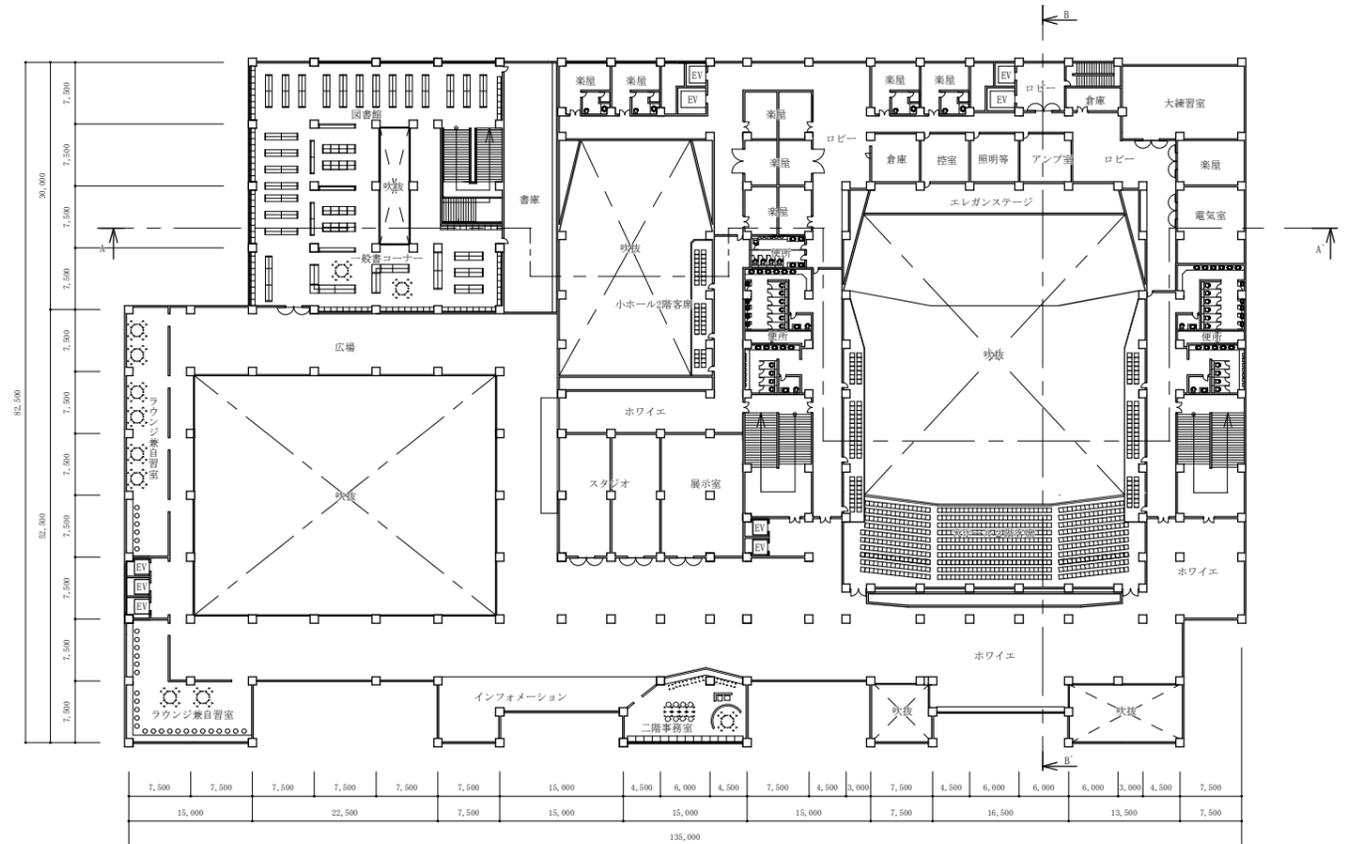


コンベンション利用時の各参加団体のパネル展示スペースとして活用。

### マーケット



地元の新鮮な野菜販売や、商店街の出張店等、松山の魅力を伝えるマーケットの開催。屋内広場より、雨天時の対応容易



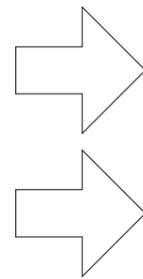
二階平面図 1/600

# 設計趣旨

私は、高校三年間を通して無料で集中できる自習空間が少ないと実感してきた。学ぶ場所の不足は、家庭環境や経済状況によって学習機会の差を生みやすく、まちの中で静かに滞在できる公共の居場所を弱くしている。一方、現・愛媛県立図書館は立地や雰囲気から日常的に立ち寄りにくいと感じ、「だれにでも開かれた学びの拠点」としての力を十分に発揮できていない。さらに、松山市民会館は閉館が検討され、両施設の老朽化が進むいまは、文化・学習機能を再編し直す転換点である。そこで松山城下の城山公園に、図書館の「知の蓄積」と市民会館の「交流・表現」を融合した文化学習拠点を提案する。建築の核は、図書館とコンサートホールをつなぐ広場である。城山公園の雨天時の代替会場のほかに、マーケットやスポーツ観戦などのパブリックビューイングなど、多様な使い方がされる。図書館は、児童書から一般書、参考書と段階的に環境の質を上げていき、にぎやかなから静けさへ気持ちに移行できる構成にした。また、利用者の集中度や気分に合わせて三つの自習空間を設けた。また、ホールに隣接して展示ルームやスタジオを設け、音楽・工作・料理などの創作活動ができる場を用意した。図書館で調べたことが、展覧会や制作、ホールでの発表へと移り、鑑賞や対話を通し再び学びへ戻る循環を生む。

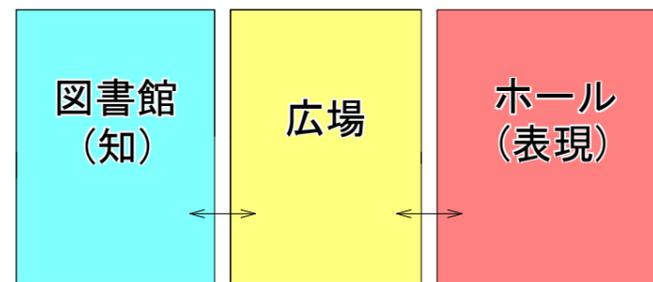
## 現状の課題

1. 無料で集中できる自習空間がない  
→学習機会が家庭環境・経済状況に左右される
2. まちの中に気軽に滞在できる公共の場所が少ない  
→ふらっと入れる場所が少なく、滞在の選択肢が限られる
3. 図書館と市民会館の老朽化  
→現既存施設の再編の必要性がある



## 改善

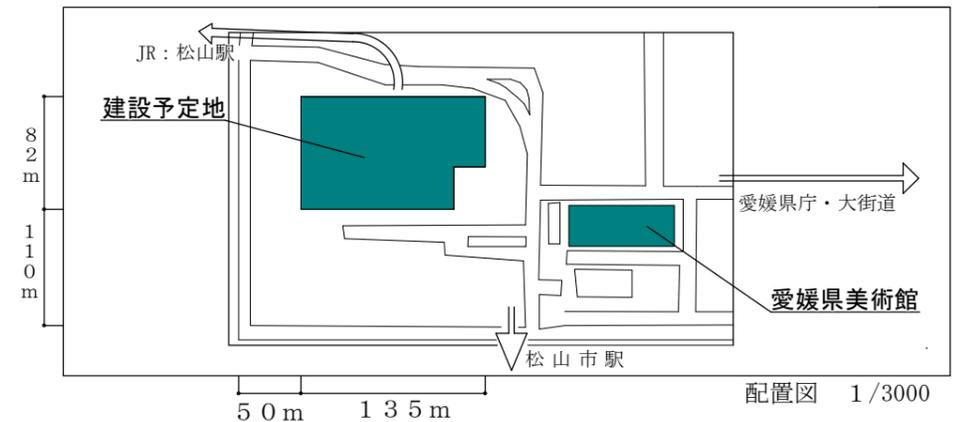
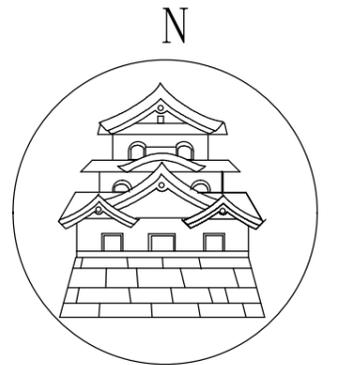
- A. 城山公園の散策道や美術館に沿って複数の入り口を設け、ふらっと入れる空間づくり
- B. 広場→ラウンジ→閲覧→自習とにぎやかから静けさへ移るグラデーションの動線設計
- C. 図書館(知)とホール・スタジオ・展示(表現)を一体化し、学びと文化の機能を再編させる  
→学ぶ、調べる、発表するが建物内で循環する構成とする



広場によって「知」と「表現」を融合

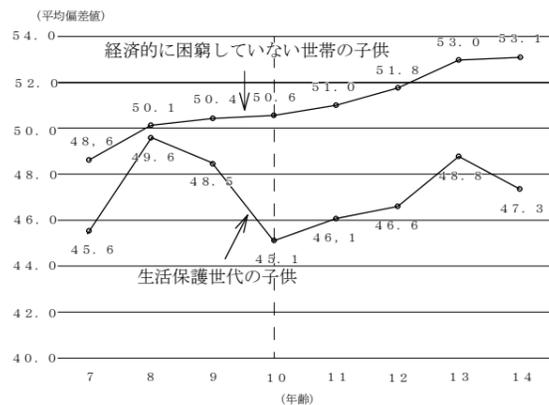
## 建設予定地

松山城下の城山公園で、歴史的景観と市街地が接する松山の中心的な場所。公園や美術館の横という立地を生かし、散策や鑑賞の流れの中に自然と立ち寄りやすい拠点とする。



建設予定図

## 「生活保護世帯と経済的に困窮していない世帯の偏差値の推移」



一般世帯と生活保護を受給している世帯の子供の偏差値を比較すると、貧困状態の子供の方が偏差値は低くなる傾向にあり、特に10歳以降で差が大きくなるという結果になっている。

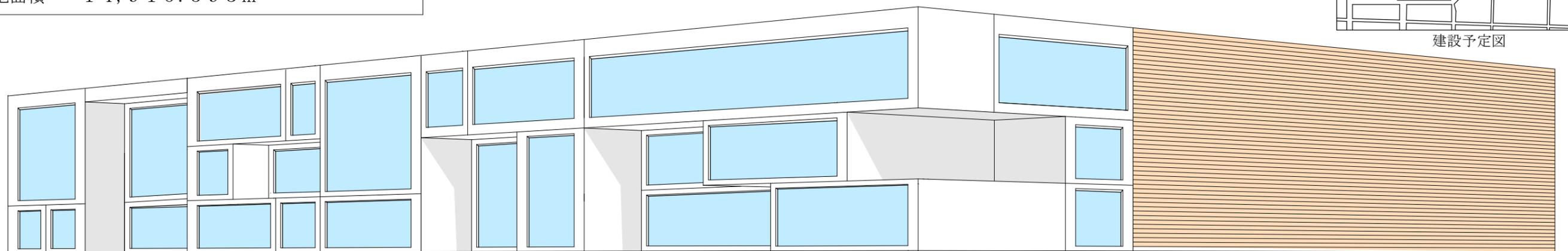
構造	鉄筋コンクリート造
建築面積	10,321.875㎡
延べ面積	23,534.691㎡
敷地面積	14,916.593㎡

## 外観

外観は松山城下の文脈を踏まえ、石垣をモチーフとした。凹凸や壁面のリズムで石垣らしさを出し、また城山公園や美術館に対して主張しすぎないようにモノトーンでまとめた。

## 切込接(きりこみはぎ)

石垣のモチーフは松山城の一部(戸無し門)で使われている積み方を用いる。石同士が密着するように石を加工して、隙間なく積み上げる最も進化した形のこと。



# 「表現」

## 大ホール

市民会館が担ってきた“表現の場”を受け継ぐ、都市規模の発信拠点として計画した。図書館で得た知が発表・鑑賞へつながり、学びが地域

## 小ホール

日常的な発表や練習、地域の小さな催しを受け止める身近な表現の場として計画した。図書館と広場に近接させることで、調べたことをすぐ発表・共有でき、学びが個人に閉じず公共空間へひらかれる。大ホールの格式と対になる、小回りの利く文化の入口である。

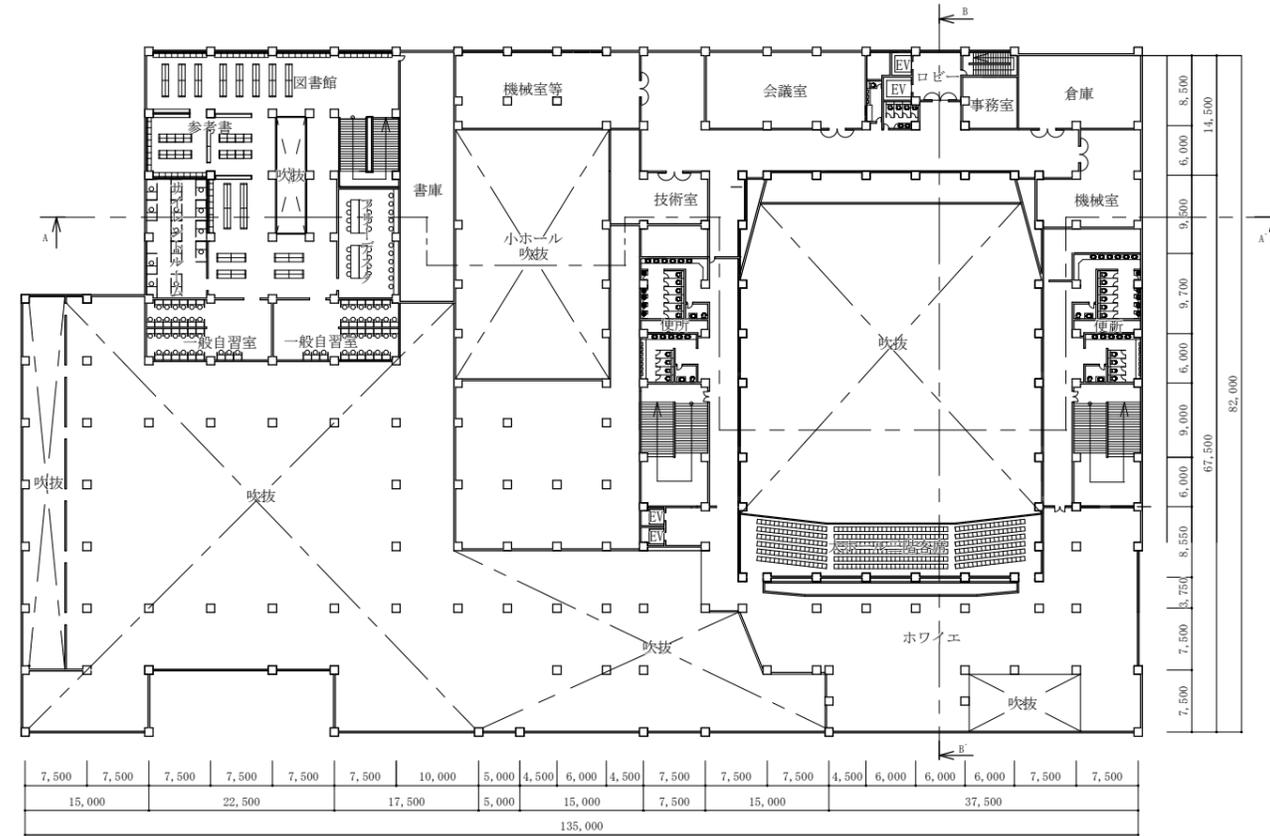
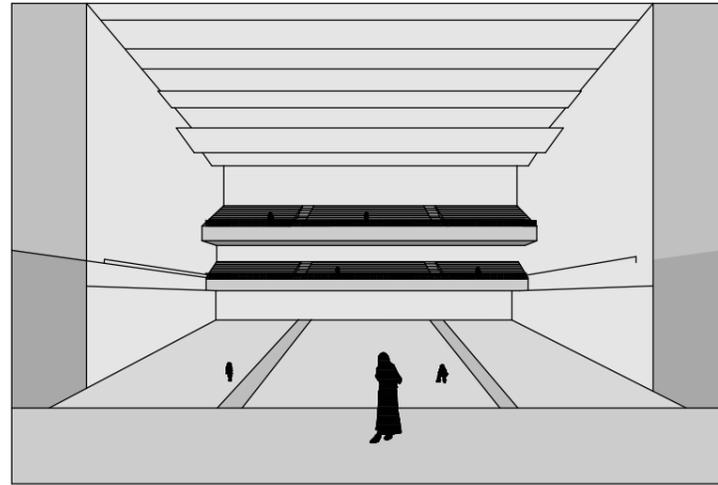
## その他施設

スタジオ — 調べたことを制作へ移す創造の場として計画した。

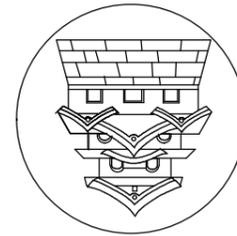
展示ルーム — スタジオや図書館での成果の展示

インフォメーション — 広場に隣接させ、目の付きやすい場所にした。

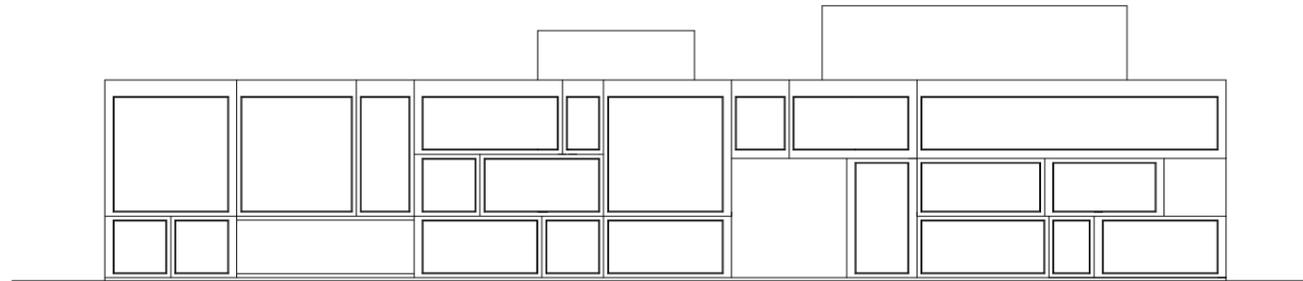
大ホール 一点透視図



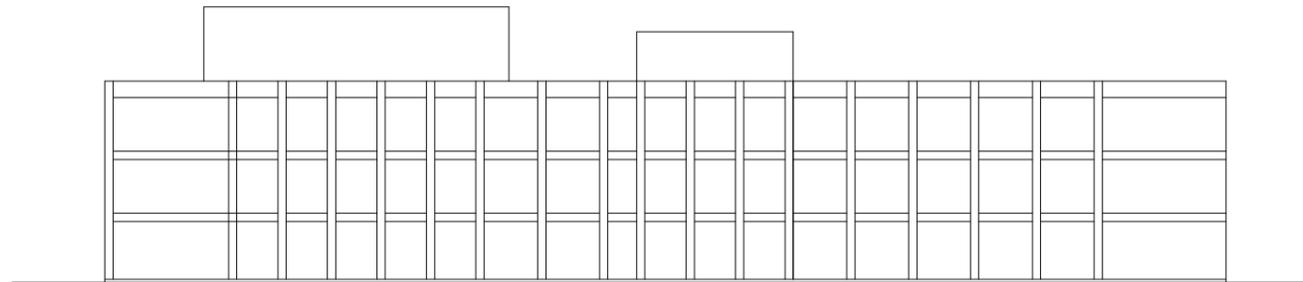
三階平面図 1/600



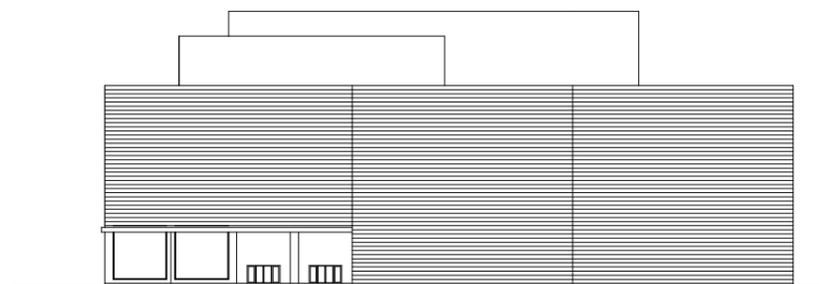
N



北立面図 1/600



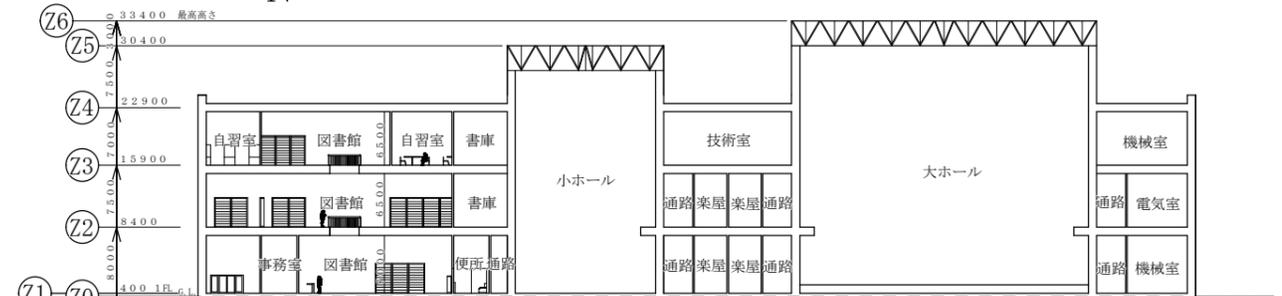
南立面図 1/600



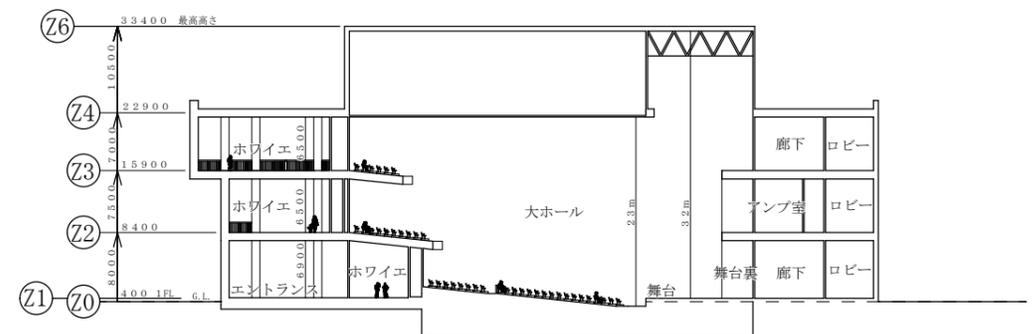
東立面図 1/600



西立面図 1/600



A-A断面図



B-B断面図